

瀧谷山報

通巻174号
[令和4年4月発行]



【今後の当山行事予定】

春季大祭 5月28日



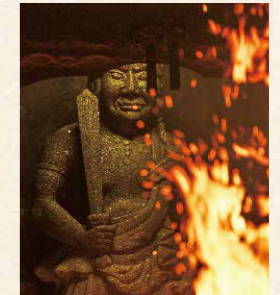
●御本尊御開扉
大護摩供
【本堂】
〈午前〉6時・10時・
11時30分
〈午後〉1時30分・3時



●大般若経転読付
大護摩供
【本堂】
午前11時30分



●柴燈大護摩供
●午前12時頃開始
●午後1時頃点火



●滝不動堂護摩供
【滝不動堂】
午前9時頃～
午後2時頃
(時刻は滝不動堂山伏に
直接お尋ねください)

観世音夏まつり 7月10日

- 施餓鬼法要
午後1時 予定
(改めてご案内いたします)
- 福引
午前10時頃～
午後3時頃 予定



地藏盆 8月24日

- 地藏盆会法要
午後3時30分 予定



※行事予定は3月20日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

■日々のお護摩祈祷

- 平 日・・・〈午前〉7時・10時・11時30分
- 土・日・祝・・・〈午前〉7時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時
- 毎月28日・・・〈午前〉6時・10時・11時30分
〈午後〉1時30分・3時
- お磨きの日・・・午前7時

■交通安全祈願

午前9時より午後4時までの毎時0分・30分(30分毎)
(毎月28日は交通安全祈願のお勤めはございません。)

■仏具磨きの日のお知らせ

●4月25日 ●5月25日 ●6月25日
●7月25日 ●8月25日
この日は仏具磨きの日ですので、お護摩祈祷は朝7時のお勤めだけです。

令和4年4月発行
通巻174号

●発行所：瀧谷不動明王寺
〒584-0058 富田林市彼方1762 電話 0721-34-0028 振替 00930-5-17704
●発行人：荒谷純光 ●編集人：荒谷純栄



窓を見つめて

毎年一月には恒例の歌会始の儀が催される。和歌というわが国の優れた芸術文化が、万葉の時代から連綿と受け継がれるうつくしき伝統である。本年のお題は「窓」であり、幅広い年代がこれに参加して総数一万三千八百三十首の詠進があった。

「窓」を用いた俳句や和歌は無数とあることだろうが、今は思うままにいくつか取り上げてみたい。

盗人にとり残されし 窓の月

良寛

質素を極める暮らしぶりの良寛さまの草庵にある夜泥棒がやってきた。しかし盗られるものすらない良寛は、盗人のために敢えて寝返りを打って掛け布団を持っていかせた時の一句と伝わる。窓の月は草庵の窓から望む名月と解釈もできようが、良寛さんの真心そのものと深読みする見方もできる。仏教では月は悟りの象徴とみなされ、あるいは菩提心という別表現でも示す重要なもの。窓は有為転変する事象を映し出すもので、私たちひとりびとりの心と置き換えて

体温計くわえて窓に額つけ

「ゆひら」とさわぐ雪のことかよ

穂村弘

現代短歌界を賑わす穂村弘氏の代表作。体調を崩して休んでいた若者だろうか、暖かな部屋の中で発熱した額を窓ガラスに当てる。心地よい冷たさで熱も引いてゆく、寝込んでいた間の降雪を喜ぶ様子に、当人の体調回復への兆しを感じ取るやさしい人がその傍にいる。家と外界を隔てる窓が決して隔絶したものではなく、互いが融けゆくような絶妙な装置になっている。元気が出てぱっと窓を開けたくなくなるような一首。

こうして窓一つを取り上げただけでも古も今も深く考える題材になるようだ。建築物の窓に限らず、私たち自身にも実はたくさん窓(感覚器官)が備わっており、それぞれの開閉も決して一定ではない。時には不要の際に勝手に開いたり、逆に緊急時には作動しなくなるなど、往々に不如意なものである。それゆえに私たちの窓、あるいは眼耳鼻舌身意の六根と置き換えてもいいそれらを、上手に働かせることが大切となってくる。正しく生きるという人における最高徳目を見失わない限り、私たちの窓は必ず真理へ通ずる窓となる。個々の平安も社会の安寧もそうしたそれぞれの営みからも

もよい。その心の中に蔵されている大事な悟りの月を誰も奪い取ることはできない。善良でやさしげな良寛を思わせる句と見せながらも、実は堅固な菩提心を示さんとした毅然たる一句かもしれない。

たはぶれの窓をも月はすすむらむ

すます友には暗きよはこそ

明恵

京都高山寺に住した梶尾明恵上人高辯の歌。上人は終生世俗とは一線を画して仏道に精進、その徳を慕う者は立場を超えて雲集した。鎌倉時代にこれほどまで純粹な僧侶がいたことは羨ましい限り。この歌は深い瞑想の境地に沈潜を続けた時の一情景であろうか。ここにいう窓や月も先の良寛同様に通常のそれらとも異なる意味を込めているように見えてくる。無常な世の中(窓)にあっても真理(月)というものが決して隠れることはない。その道理に通暁している者には、どんな暗夜にあっても光明が照り続けるのである。窓と月をひとつの対句のように捉えて悟境に到れと教えてくれる歌である。



たらされるはずである。それゆえに何人も他の窓を傷つけたり壊してはいけない、その幸せの窓を。

本年歌会始の御製には

世界との行き来難かる世はつづき

窓開く日を偏に願ふ

春の訪れ、新年度の始まりである。ご信徒を始めとする皆様方の窓が大きく開かれ、そこから無量の幸せが放たれんことを、またその窓に向って数多の幸せが訪れることを切に念じる春本番である。

春季大祭

5月28日

大般若経転読付大護摩供
柴燈大護摩供
嚴修



柴燈大護摩供とは…

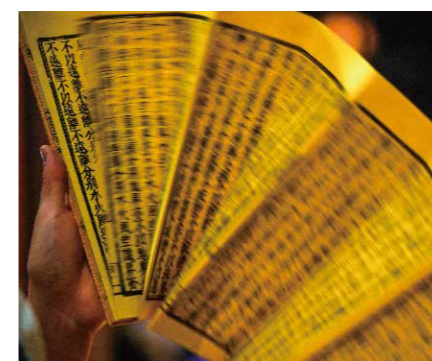
山中で採った柴に火をともし、火の中に不動明王をまねいて人々の平安を祈る修験道の儀礼。一説には、寛平2年(890)日吉大社において初めて勤められたとされる。神と仏を一体と考える修験道では、世俗から隔絶した山中を、神々が住む世界＝仏の身体そのものと考え、清浄な山中で修行し、祈る山伏たちが活躍した。柴燈大護摩供では、魔物を追い払い道場を清める宝弓の儀や、山中から薪を切り出すことを示す宝斧の儀など、古式ゆかしいさまざまな作法が伝わる。



来たる五月二十八日、瀧谷不動尊一年最大の行事である春季大祭が盛大に勤められます。当日は、午前十一時半から本堂にて、河内諸大徳ご出仕のもと大般若経転読付大護摩供が勤められます。また、100名にのぼる大峯山修験者により、境内にて古式に則り柴燈大護摩供が厳修され、ご信徒の皆様のお願いを祈念いたします。

柴燈大護摩供では、修験者たちによる読経のほか、皆様のお願いが記された数万本におよぶ護摩木が、天をも焦がす大きな炎に次々と投げられ、所願成就の祈りを込めて焚き上げられます。身体健全・商売繁盛・災難消除等、柴燈大護摩供のご利益を頂かれますよう、同封の申込用紙をご確認のうえ、本数に関わらずお申し込みください。

ぜひ当日はご参拝くださり、ご自身のお祈りを深めていただきますよう、ご案内申し上げます。



- 御本尊御開帳大護摩供
【本堂】：午前6時
- 大般若経転読付大護摩供
【本堂】：午前11時30分
- 柴燈大護摩供
【境内】：午前12時頃開始
午後1時頃点火

滝不動堂護摩供

毎月28日、滝不動堂では山伏たちにより護摩供が勤められます。

滝不動堂では護摩供で焚く護摩木のお供えを受け付けており、お供えされた数に応じて御幣が授与されます。

- 毎月28日 午前9時頃～午後2時頃
(詳細な時刻は滝不動堂山伏に直接お尋ねください)
- 護摩木：1本 300円
(山伏による宝剣加持は休止しております)



観世音夏まつりのご案内 (施餓鬼廻向)

7月10日



廻向とは……

私たちが積んだ功德をご先祖様に廻し向けることです。亡くなった方はこの世で功德を積むことが出来ません。そこで、お坊さんにお経をあげてもらったり、仏様にさまざまな供物をお供えしたり、毎日に感謝して手を合わせる心を持ち、善い行いをしたりして、それらの功德をご先祖様に廻し向け、福德を受けてもらうことを廻向と申します。

7月10日(日)、瀧谷不動尊ではご信徒皆様に故人を偲び、お祈りいただく行事として「観世音夏まつり」をお勤めいたします。

瀧谷山では年に一度の廻向の行事である観世音夏まつり。観世音夏まつりでは、廻向の申し込みをいただいた精霊それぞれに経木(お塔婆)をお作りし、法要当日はお戒名を一体一体読み上げて、皆様のご先祖様やご縁故の方々に廻向申し上げます。

新たな客殿の完成に伴い、昨年からは客殿の大広間に会場を設けてお勤めしております。廻向申し込みの方には、恒例の福引がございますので、どうぞお楽しみください。以前実施しておりました清興(落語)の再開は、状況を見て判断させていただきます。改めてご案内をいたします。

お申し込み用紙は6月頃、以前にお申し込みの方を優先してご案内いたします。ご希望の方は寺務所までお問い合わせください。

※昨年より、多くの方にお参り頂きやすいよう、観世音夏まつりの日程を7月の第2日曜日に変更いたしました。お間違いないようお誘い合わせの上、お参りください。

- 観世音夏まつり
- 日時：7月10日(日) 午後1時予定
- 会場：客殿大広間
- 廻向料：5000円
(廻向は5体まで。追加1体につき1000円)
- お申し込み：6月頃ご案内

稲荷大明神社 提灯奉納のお願い

瀧谷山の鎮守としてお祀りしております稲荷大明神社の提灯について、痛みがひどくなり、このたび新しくすることとなりました。つきましては次の通りお施主様をお募りいたします。

皆様には何卒ご協力をお願いいたします。

- 奉納料
提灯1対(左右)：1万5千円
- 募集数：8対
- お問い合わせ：寺務所



不動尊御影入り 念誦のすすめ

瀧谷山では、お不動さまの御影入りの念誦を製作し、御膳場にてお授けしております。

真言宗では数珠を広く「念誦」と呼び、お経や真言の回数数を数えるために用います。一字一字、一返一返に仏さまを念い、真言を誦することから、念誦の名があります。

こちらの念誦は、念誦の中心となる母珠に、お不動さまの御影が入ったもので、母珠のレンズを覗くと、お不動さまのお姿を拝むことができます。形は、本連と呼ばれる正式なもので、108つの珠と7返・21返の目印となる四天珠をそなえており、本格的な修行にも用いることができますが、ご信徒皆様の日常のお祈りに使っていただきやすいよう、材質は柔らかく、扱いに気をつかわない梅の素挽きで製作しております。

また、より手頃な念誦として、左腕につける腕輪念誦もご用意

しております。こちらは、黒檀の香木と瑪瑙の珠を使用しており、肌馴染みが良く汚れも気にならない、つけていただきやすいものです。

数珠は一般に、葬儀などの仏事のためのアクセサリとする向きもあるようですが、念誦をつけるとお不動さまとの縁がより深く感じられ、また祈りも深めやすいものです。ぜひお求めになり、日々のお祈りにお使いください。

- 不動尊御影入り
本連念誦：5000円
- 黒檀腕輪念誦：1500円



不動尊御影入り本連念誦



黒檀腕輪念誦

- 仏具等奉納者御芳名
- 本堂水引一式 大阪市
- 本堂内陣華鬘 大阪市
- 講堂常華 大阪市
- 講堂吊燈籠一對 岸和田市
- 講堂太鼓 大阪市
- 講堂大鼓 大阪市
- お滝どじょう賽銭箱 富田林市
- 不動尊絵画 三重県
- 奈良県

天子になった魚たち①

この山報では何回もご紹介していますが、瀧谷不動尊には古くから伝わる「身代わりとじょう」のおはなしがあります。

”その昔眼病を患っていた人が、当山のお滝にてとじょうを放してあげたところ、このとじょうがその目の身代わりとなってくれて、目が見えるようになった”といったおはなしが伝えられています。(鼈鱈人の目に代わりし事『瀧谷不動尊靈驗記』)

ところで、そもそもなぜ、とじょうを池や小川に放してあげるのでしょいか。どうしてそんなことをするようになったのでしょうか。まず、そのことを簡単に振り返っておきましょう。

生き物を放ち、自由にしてあげられることを仏教では「放生」といいます。

日本においては7世紀から記録がみられ、天武天皇や持統天皇ら、なだたる天皇が詔して積極的に放生を行わせたことが伝えられています。

仏教には生き物を殺めてはならない「不殺生戒」という戒めがあります。仏教では、生き物の命を奪う行いをすれば、その報いが必ず自分自身に返ってくると思えます。そのためにお釈迦さまは、人々がその報いを受けてつらい思いをしないように、殺生を戒めたのです。

人々を救いました。このことによって流水は国中の人々からとても尊敬されておりました。

流水には、妻・水肩蔵との間に二人の子どもがおりました。それぞれ名を水満・水蔵とよみました。

ある日、流水は二人の子を連れて、国王のいるお城や人々の住む街中へと出かけました。道中に、沢辺を行き、深く険しい所に行き当たると、突如として、鋭い爪をもつ鳥や、キツネ、狼など、肉食の動物たちがざわっと一方向へ走り、飛び去っていきました。不思議に思った流水はそれらの後を何となしに追ってみることにしました。

するとそこには巨大な池がありました。しかしこの池の水は今にも涸れようとしていて、そのわずかしかない水の中に、もがき、のたうたうさん魚の姿をみとめました。

なんとまあ、可哀想なことだろうか、どうにかして助けてあげたい、流水は心から思いました。

すると、まるで流水の思いが通じたかのように、忽然と樹の神さまが姿を現します。

「そなたの思いは実によい、その通りだ。そなたの流水という名前には真の意味があるのだ。よいか、これらの魚を憐れみ、まさにそなたの名の通りに水を与えてやりなさい。そなたの名の意味は『よく水を流すこと』『よく水を与えること』である。さあ。」

突然のことに流水は臆することなく、神に尋ねます。

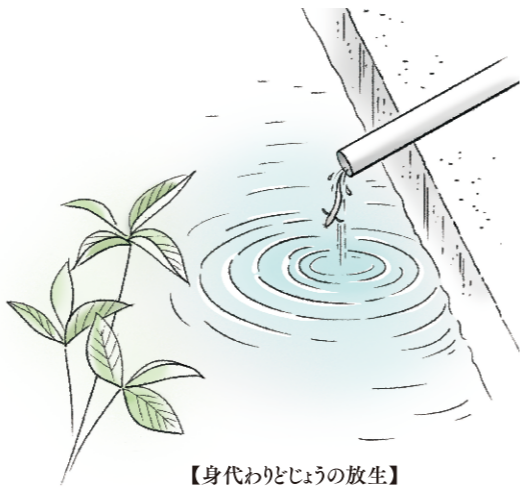
ところが、私たちの日々の暮らしの中で、まったく生き物を殺さないということは、実際のところ非常に難しいことです。そこで人々は、「殺生」と対極にある行い、つまり生き物を自由にしてあげること、広く言えば命を助けてあげること、少しでも日々の殺生の報いを軽くしよう、罪滅ぼしをしようと考えたのでしよう。このようにして、生き物の命を救う放生は、功德ある行為としてインドより始まり、中国・日本など東洋では広く行われることとなりました。ちなみに、各地で行われた放生の記録では、魚だけにとどまらず、亀や鳥、また、牛や山羊などの大きな動物も救ってあげる対象になっていました。タイなどでは、助けてあげる動物によって、受けられる報いが違うという考えもあるようです。

さて、これから紹介するのは「生き物を救うこと」について、『金光明最勝王経(金色に輝く最もすぐれた経の王の意)』というお経に説かれる興味深いお話です。

このお経には流水という名の長者が登場し、二人の子ともと共に、干上がった池から数多の魚を助けるため、私財をなげうって水と餌を与える話が出てきます。

流水はもと、持水という長者の息子でした。ある時、彼らの住まう国にさまざまな病が蔓延します。

父・持水は名医でしたが、すでに高齢であったため、一念発起して流水がこの老父から医術を学び、病気に苦しむたくさん



【身代わりとじょうの放生】
川に放されたとじょうは、災いや厄を持っていてくれると言われています。

「この池の魚はいったい何匹ほどでしょう」

神は答えます。「一万匹ほどもいるだろう」と。

それを聞いて、あまりの数に、流水は更に憐れみの気持ちを増していきます。

ほとんど水のない、今にも干上がりつつある池の中で苦しむ魚たち。矢も楯もたまらず、流水は近くに水場がないか、四方を探しますが、すぐには見つけることができず、ひとまず大樹を見つめるや、枝葉を取ると、池の周辺に申し訳程度の日陰を作ってやりました。しかし、日陰を作っただけでは、一時しのぎにしかありません。涸れつつある池を水で満たさない限り、苦しむ魚を助けることはできないのです。

さて、流水はいったいどのように、この魚たちを助けるのでしょうか。続きはまた次回。

お寺のごはん

8 筍の木の芽田楽

春ともなると、この辺りでもふんだんに筍がとれます。もちろん京都の白子ほどではありませんが、それでも採れ立てはなかなか柔らかくて、春の到来を感じさせるご馳走です。

まず春一番は、走りの筍を使って若竹汁、若竹煮、たけのこご飯とつづき、木の芽あえ、露との炊き合わせ、天ぷら、みそ田楽、普茶料理の具など、そしてもう食べ飽きたころには、中華料理の具にと重宝いたします。

若い人などは吹き出物に困り果てることもしばしば。

ここでは筍の木の芽田楽をご紹介します。



材 料 ●筍 ●木の芽 ●白みそ

●筍の皮の先のほうを少し落として、お米のとぎ汁でゆがいて、そのまま冷やします。(冷めたら鬼皮をむいて保存容器にお水をはり、お水を毎日替えると冷蔵庫でしばらく保存できます。)

下拵え

- 田楽には先の方や根に近い部分はあまり適しません。中ほどを少し厚めの輪切りにしておきます。
- 薄味に煮ておいてもいいですし、湯がいたままでも素朴でおいしいです。

作り方

- すり鉢に木の芽をいれて、搗り子木でよく搗ります。搗りつぶせたら白みそを入れてさらに搗り、木の芽とお味噌をなじませてお砂糖、お塩を加減し、お昆布の出しで少し伸ばします。
- 先用意した筍に木の芽みそを塗って、お味噌が少し焦げるくらい上から火をあぶります。

お知らせ

今年5月28日以降

滝谷不動駅からの車両通行止めがなくなります

府道森屋狭山線の近鉄滝谷不動駅から滝谷山までの区間は、これまで毎月28日、お不動さまのご縁日にお参りになる多くの方々のため、車両の通行止めが実施されてきました。歩行者天国となった道の両側に立ち並ぶ多くの露店は、地元の名物として多くの人々に親しまれてきました。しかしながら近年、自家用車の普及などにより徒歩でお参りされる方が少なく、通行の減少に伴って露店の出店も減った結果、慣例となった交通規制だけが残る状態となっていました。

この交通規制のため、地域の皆様には長年不便を忍んでいたっており、もはやこれ以上の我慢をお願いすることは忍びなく、またお参りの皆様にも、かつての賑わいをもう一度感じてもらいたい方法はないものか、露店組合や警察とも協議を重ねた結果、府道の交通規制は終了し、滝谷山駐車場を露店の出店場所として提供することいたしました。

今年5月28日以降は、府道森屋狭山線の交通規制がなくなり、終日お車での通行が可能となります。安全のため、これまで徒歩で参拝されてきた皆様には、近鉄富田林駅からバスまたはタクシーをご利用くださいますよう、ご案内いたします。また、明王殿前の第1駐車場



は露店が出店しますので、お身体の不自由な方以外は山上駐車場をご利用ください。ご参拝の皆様にはご不便をおかけいたしますが、どうかご寛恕の上、今後ともご縁日にお参りくださいますよう、ご案内申し上げます。 ※滝谷山では露店に関するお問合せは一切お受けできません。また、遺失物やトラブルなどに関しても責任は負いかねます。ご了承くださいませ。

～ 編集後記 ～

新型コロナウイルス流行の終息も未だ見通せない中、世界では痛ましい戦争勃発のニュースが飛び込んできました。大義や理由のあるなしに関わらず、失われる犠牲者の一人一人が、みな誰かの子であることを思うと、悲痛な思いに捉われざるをえません。

私事ですが、年明けに子どもが産まれました。これからの世代が、戦争という不幸を知らずにすめばと思い、祈るばかりです。